

# 博物館だより

No.72

平成24年4月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行  
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13  
TEL 0930-33-4666  
FAX 0930-33-4667

## 博物館友の会

### 会員募集!

みやこ町歴史民俗博物館友の会は「故郷を楽しく学ぶ」をモットーに、講演会やバスハイク・歴史たんけんウォークなどさまざまなイベントや学習会を行っています。

関心のある方なら、どなたでもお気軽に参加いただけます。ぜひ、ご入会下さい。

#### 入会の方法

博物館の窓口で会費を納めてください。

#### 年会費

個人会員 3000円

家族会員 1名2000円

#### お問い合わせ先

みやこ町歴史民俗博物館内  
友の会事務局

TEL 0930・33・4666

#### 4月期歴史講座のご案内

##### 【漢詩文講座】

4月7日(土) 9時30分～

##### 【古文書講座】

4月14日(土) 10時00分～

##### 【古典かな講座】

4月21日(土) 9時30分～

##### 【金曜古文書講座】

4月27日(金) 10時00分～

##### 【みやこ学講座】

4月28日(土) 10時00分～

歴史を学ぼうー文化にふれようー!

## 歴史講座受講生募集!

博物館では新年度からの歴史講座の受講生を募集します。

午前9時30分～

#### 【古文書講座】

○講師 当館学芸員 川本英紀

○内容 江戸時代の人が「くずし字」で書いた手紙や日記などを解読します。特にみやこ町に係る古文書を歴史的な背景についての解説を交えながら読み進めます。

○実施日 毎月第2土曜日

午前10時00分～

#### 【金曜古文書講座】

○講師 当館学芸員 川本英紀

○内容 博物館に収蔵される古文書を主なテキストとして、江戸時代後期以降の豊前地域をめぐる行政・生活・文化に関わるさまざまな情報を読み解きます。

○実施日 毎月第4金曜日

午前10時00分～

#### 【みやこ学講座】

○講師 当館学芸員 辛嶋眞治  
木村達美

○内容 郷土の歴史について講義ばかりでなく、実際に現地(遺跡や博物館など)を見学したり、ゆかりの実物資料に触れたりしながら、体験的に学習します。

○実施日 毎月第4土曜日

座学は午前10時00分～

見学会はその都度連絡します。

#### 【古典かな講座】

○講師 宮原加代子先生

○内容 今年「高倉院殿島御幸記」をテキストに、平家物語と兼ね合わせつつ鑑賞・手習いします。初心者大歓迎ー用紙と鉛筆あるいは筆・ペンを(用意下さい)。

○実施日 毎月第3土曜日

#### \*講座内容紹介

##### 【漢詩文講座】

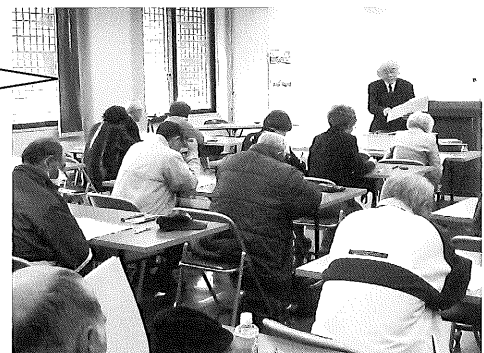
○講師 宮原加代子先生

○内容 緒方清溪をはじめ、主に九州の漢詩人の詩を鑑賞し、その旧蹟をたどります。また、漢詩文の基礎、佳句の手習いも行いますので用紙・筆記用具を持参ください。初心者の方も大歓迎です。

○実施日 毎月第1土曜日

午前9時30分～

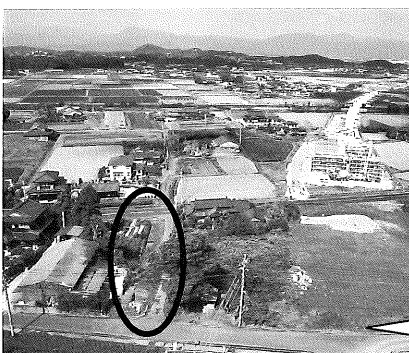
## 3月の業務日誌から



▲山内先生の説明に聞き入る聴講の皆さん

3月3日(土)、館内研修室で美夜古郷土史学校事務局長 山内公二先生による「伊東尾四郎と京都郡誌」と題した文化講演会が開催され、地域学の先覚者・伊東尾四郎先生の優れた業績が紹介されました。

3月25日(日)、船泊窯跡公園学習館(築上町)で開かれていた「京築地区発掘調査速報展2012」が終了しました。みやこ町からは清地神社南古墳群(勝山長川)皆見地区官道遺跡(皆見)の成果が紹介され、歴史ファンの関心が寄せられました。



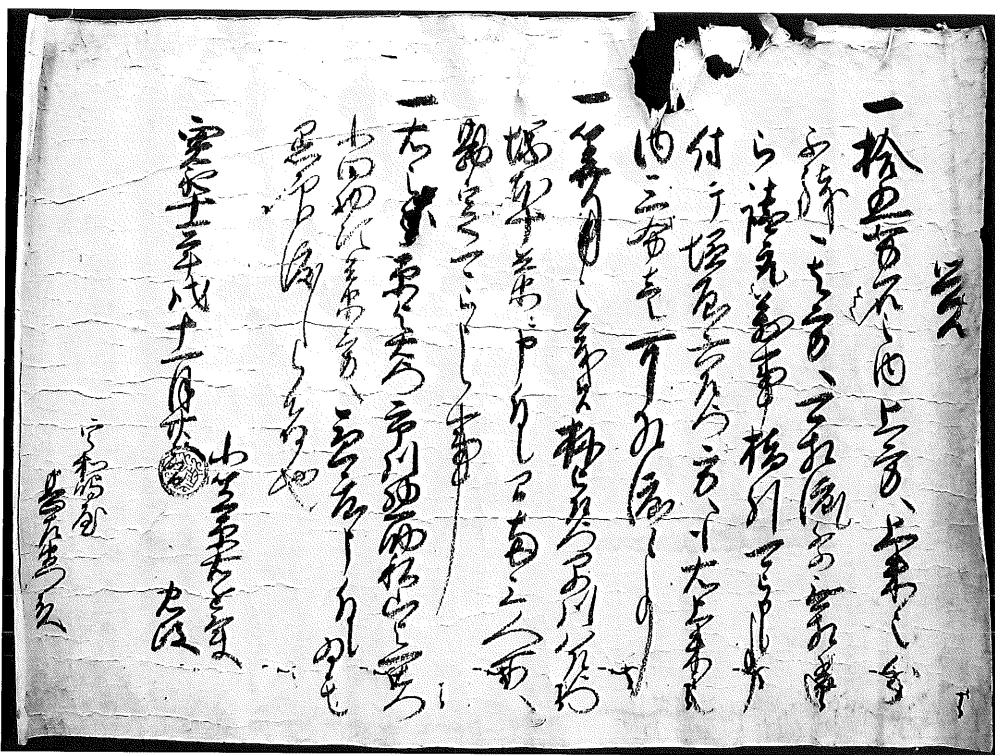
▲皆見地区官道遺跡(枠内)と東九州道

# みやこの歴史発見伝 54

古文書が語る村の生活と文化 9

## 年貢米のゆくえ

〔史料〕



(行橋市個人蔵・みやこ町歴史民俗博物館寄託)

上に掲げた史料は、行橋市在住の個人所蔵で、現在みやこ町歴史民俗博物館に寄託されている史料です。その包紙に記された記録から、これが元々は旧豊津藩(小倉藩)藩主・小笠原家の別邸(昭和二十年代前半まで豊津に所在)に所蔵されていたものであることが分かります。解読文は次のとおり。

覚

一、拾五万石之内、上方へ上米之分不残其方へ可相渡候条、無相違被請取、万事指引可被申候事付テ、塩屋六左衛門方へも右上米之内三分壹可相渡候事  
一、算用之義者林与左衛門、早川八左衛門、塚本十兵衛二申付候間、両三人所へ勘定可被申候事  
一、右之分、原与右衛門、市川惣助、秋山与一右衛門、小田切次兵衛方へ急度申付候、為其黒印渡候者也

小笠原右近大夫

忠政

寛永十一年戌十一月廿三日

宇和嶋屋

甚左衛門殿

差出人の「小笠原右近大夫忠政」とは、小倉小笠原藩初代藩主・小笠原忠政(のちに忠貞と改名)で、宛名の宇和嶋屋甚左衛門は、詳細は不明ながら、大坂の商人と考えられます。

### 年貢米のゆくえ

史料の内容は、小笠原忠政が宇和嶋屋甚左衛門に対して、大坂へ



▲小倉小笠原藩の大坂蔵屋敷のあった旧塩屋六左衛門町附近(現大阪市北区中之島6丁目)

回送する米の販売を委任したものです。「十五万石」とは、小倉藩が幕府からの拝領した領地の石高です。その内「上方へ上米之分不残」ということはつまり、領内で取り立てた年貢米の内、大坂で現金化する米の販売は全部宇和嶋屋に任せるといふ内容です。大名からこのような委任を受けた商人を「蔵元」といいます。ただ、町人蔵元が一般化するのには寛文年間(二六六一〜六七三)頃からといえますので、この史料に見る小倉藩と宇和嶋屋の関係は、そのかなり早い例ということになります。

### 塩屋六左衛門

史料に「塩屋六左衛門方へも右上米之内三分壹可相渡候事」とあるように、小倉藩は宇和嶋屋甚左衛門に対し、販売を任せられた米のう

ち、三分の一を塩屋六左衛門に渡すよう指示しています。孫請けのような形で、大坂回送米の販売を塩屋六左衛門にも請け負わせたのでしょうか。

この塩屋六左衛門についても詳しいことは不明ですが、現大阪市北区中之島六丁目、その昔、町名として「塩屋六左衛門町」(明治五年より中之島六丁目)がありました。大坂城下は、その土地を開いた者の名を町名にする例があったことを考えると、史料に出てくる塩屋六左衛門と同じ名前の町名との間には、そのような関係があったのかもしれませんが、また実は、小倉藩の大坂蔵屋敷は、まさしく、その塩屋六左衛門町にありましかもしれません。これも、きつと偶然ではないでしょう。

(川本英紀)